

## 環境未来都市(ネットワーク構想)について

黒川 清  
政策研究大学院大学

### 【環境未来都市構想における重点課題】

戦略ターゲット 抽象論・主観論を排し、実現すべき、具体的な戦略ターゲットを明確化する(例えば、再生エネルギー移出都市、環境ベンチャー集積都市等)。

オープン 情報は公開し、中間報告・最終報告をすばやく、英語でウェブに掲載する。また、参加都市は計画段階から、その取組を内外に発信する。

グローバル プロジェクトへの内外の多様な参画・交流を大前提とする。例えば、様々な主体からの提案実現の仕組みを取り入れるほか、世界の複数の姉妹都市等とのヒト、モノ、カネの相互交流を要求する。

コミットメント 多年度にわたる支援措置(例えば、都市ごとにファンドを組成するなど)、規制改革(環境・エネルギー規制、都市計画・都市開発規制等)についての実現方策について明確にコミットする。

選択と集中 人口 20 万～150 万単位で、8～10 箇所に集中する。

評価の仕組 「都市魅力指標」を策定し、都市の選定に当たって活用するほか、事業成果の進捗を評価する。全国各都市での指標の活用を通じて、取組のスケール・アウトを目指す。

## 【都市魅力指標について】

以下の10項目をまとめて大まかな指標を作成する。測定方法はなるべく簡素なものとし、取り組みやすいものにする。(この指標は世界のどこかにあるだろう)

指標の活用の仕方は、以下のとおり

### ○ 都市の選定基準として

指標の数値が高い都市、それぞれの指数が大きく向上している都市を複数参照しながら、選定する

### ○ 都市づくりの進捗評価基準として

この指標及びその土台となる各指数について、世界の都市を参考にしながら 10 年以内で 100%達成するような高い目標への計画を立案、それらを執行する第1次5カ年計画を各都市ごとに策定し、その達成状況・進捗状況を公開するとともに、成果を評価する。第1次5カ年計画で進捗の悪い都市については、計画を中断する。

### ○ 全国各市町村の自発的取組のチェック基準として

環境都市構想の普及・浸透のため。全国のどの市町村でも、自らの取組の成果を自己チェックできるようにする。

### <10の指数等>

1. エネルギー効率(CO2単位、再生エネルギー%)
2. 健康魅力指数
3. 教育魅力指数
4. 自然環境魅力指数
5. 経済活力指数
6. 食料水等の自給率
7. 公共交通利用度
8. 地域社会のハブとしての貢献度
9. グローバル指数
10. 多年度にわたる事業予算の担保・持続可能性